

氏 名	小 林 泰 之
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4390 号
学位授与の日付	平成 23 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Prognostic Factors Influencing Survival after Nephroureterectomy for Transitional Cell Carcinoma of the Upper Urinary Tract (上部尿路上皮癌に対する腎尿管全摘後の予後因子に関する検討)
--------	---

論文審査委員	教授 平松 祐司 教授 藤原 俊義 准教授 三村 秀文
--------	-----------------------------

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎尿管全摘除術は上部尿路上皮癌に対するスタンダードな術式である。近年、上部尿路上皮癌に対する予後因子は、病理学的因子を含めた様々な因子が検討されつつある。2000 年 1 月から 2004 年 12 月までの間に、岡山大学病院ならびにその関連施設にて施行した腎尿管全摘除術症例 221 例を対象に病理学的因子を含めた予後因子の検討を後ろ向きに行った。検討因子は性別、年齢、T 分類、病理学的因子（異型度、静脈浸潤の有無、リンパ管浸潤の有無）、腫瘍部位、腫瘍個数、Surgical approach とした。生存率は Kaplan-Meier 法にて算出し、有意差検定は Log-rank test を用いて行い、多変量解析は Cox 比例ハザードモデルを用いた。多変量解析の結果、病理学的因子の静脈浸潤が独立した予後因子であった(HR 3.354, 95%CI:1.205-9.337, $p=0.0205$)。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は岡山大学病院および関連 15 施設の上部尿路上皮癌に対する腎尿管全摘施行例 221 症例を対象に、予後因子について検討した論文である。病理学的因子を含めた、性別、年齢、T 分類、病理学的因子（異型度、静脈浸潤の有無、リンパ管浸潤の有無）、腫瘍部位、腫瘍個数、Surgical approach の各因子につき検討がなされている。多数例を用いた多変量解析の結果、病理因子の静脈浸潤が独立した予後因子であることを見いだしており、本結果は今後の新しい上部尿路上皮癌治療法の開発にも結びつく有益な研究成果であると考えらる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。

審 査 概 要：

初回予備審査時には、学位請求論文中に多くの誤記が発見され、このため判定不能とした。その後、掲載誌に修正記事が掲載されることになり、その内容、修正論文、主論文の要旨、内容要旨を再審査し、予備審査合格と判断した。